

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名 | 北 海 道

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	稚内市立潮見が丘中学校					教員数
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	23
学級数	2	3	3	2	10	
生徒数	64	88	85	3	237	

研究の概要

1. 研究主題

自ら学ぶ指導のあり方
～教科の指導過程と「総合的な学習の時間」の研究～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 1, 2, 3年英語
生徒の理解、定着に差なのでやすい教科であるため
- ・ 1, 2, 3年 数学
生徒の理解、定着に差なのでやすい教科であるため

(2) 年次計画

平成15年度

テーマ
T Tによるきめ細かな指導と習熟度別指導による個に応じた指導の工夫

研究の見通し
数学科、英語科においてT T指導・少人数による習熟度別指導を取り入れる中で個に応じた指導方法の工夫改善を図ることにより、基礎・基本を確実に定着させ、生徒が自ら学び考える力を育てることができる。

研究の内容・方法
全学年の英語科ならびに2, 3年の数学科においてT Tによる個別指導やグループ別指導など、領域や単元、指導過程に応じた指導方法や指導体制の工夫改善を図るとともに、指導に生かす評価の方法を研究する。
また、1年の数学科においては、学級を習熟度別に2つに分け、全ての生徒が基礎・基本を確実に身に付けるとともに、理解を深める学習を行うなど、個に応じた指導の充実を図る。

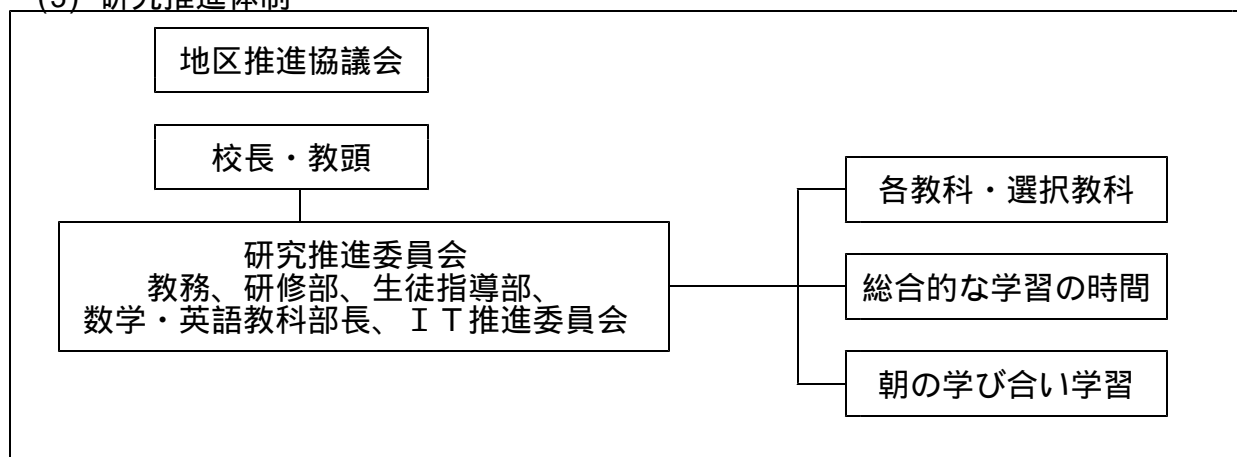
平成16年度

テーマ
T Tによるきめ細かな指導と習熟度別指導による個に応じた指導の工夫

研究の見通し
数学科、英語科においてT T指導・習熟度別少人数指導を取り入れるなど個に応じた指導方法の工夫改善を図ることにより、基礎・基本を確実に定着させ、生徒が自ら学び考える力を育てることができる。

研究の内容、方法
< T T指導 >
1, 2, 3年生の英語科においてT Tによる個別指導やグループ別指導など、領域や単元、指導過程に応じた指導方法や指導体制の工夫改善を図るとともに、指導に生かす評価の方法を研究する。
< 習熟度別指導 >
1, 2年の数学科においては、学級を習熟度別に2つに分け、全ての生徒が基礎・基本を確実に身に付けるとともに、理解を深める学習を行うなど、個に応じた指導の充実を図る。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

< T T 指導 >

- ・ペアワークやグループ学習の際、子どもの実態に合わせた丁寧な指導が可能になった。
- ・板書や発問などの役割分担により、指導者にゆとりが生まれ、多くの生徒への声かけが可能になった。
- ・複数の目による多面的な理解など、今後の指導と評価の一体化の研究の方向性が示された。
- ・T2が英語専門ではないことで、特に、英語が苦手な生徒に親近感と安心感が生まれた。

< 習熟度別指導 >

- ・生徒が自分の課題にしっかり向き合い、それを克服していくための体制づくりが進んだ。生徒の実態に応じたコース設定により、個に応じた指導の充実を図ることができた。
- ・生徒と保護者への習熟度別指導についての説明や適切な面談の方法についての研究が進んだ。
- ・少人数での指導により、生徒の積極的な質問や発言が見られるようになった。

2. 今後の課題

- ・教師間の連携について充実が図られてきたが、T Tの授業で評価の全体計画が毎時
間において適切に生かされるよう、事前の打ち合わせを一層充実させる必要がある。
- ・「全国標準学力検査」の結果を分析し、今後の指導に役立てる。

学力等把握のための学校としての取組

- ・「全国標準学力検査」平成16年2月 実施予定
国語 数学 英語について、次年度に比較検討をする資料とする。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・研究の発表の場として公開研究会の実施
日時 平成16年11月26日
場所 潮見が丘中学校
対象 各フロンティア校並びに管内の中学校
- ・HPによる成果の発表

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T.Tによる指導
 その他
- 【研究教科） 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無